

Title	「‘仏性’と‘スピリチュアリティ’を考える：仏教は‘スピリチュアルケア’に堪えるか？」報告（2014 年度聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター主催：2014 年度第 4 回スピリチュアルケア研究会）
Author(s)	田村，綾子
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24No.3, 2015.3 :55-56
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=5272
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2014 年度 聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター主催
 2014 年度 第 4 回スピリチュアルケア研究会
 「仏性」と「スピリチュアリティ」を考える
 —仏教は「スピリチュアルケア」に堪えるか?— 報告

1月30日（金）聖学院大学駒込校舎において、
 本学総合研究所スピリチュアルケア研究会と東京
 スピリチュアルケア研究会の共催による第4回ス
 ピリチュアルケア研究会が開催された。今回は、
 東京スピリチュアルケア研究会の世話人の一人で
 あり、僧侶で武蔵野大学研究所研究員の小森英明
 氏より「仏性（ぶっしょう）」と「スピリチュアリティ」
 を考える～仏教は「スピリチュアルケア」に堪える
 か?～と題して講演が行われた。

1. 問題提起

小森氏によれば、理論と実践の相即が求められる
 対人援助として比類ないであろうスピリチュア
 ルケアは、一方で援助者の在り方の根底に一種の
 とらわれの無さ（融通無碍）が求められるという
 意味において、仏道と極めて近い親和性を有す
 る。しかし、それは仏教が伝統宗教だからという
 ことではなく、自覚的にスピリチュアルケアに介
 入するための明確なロジックの構築の後にあるべ
 きであるという問題意識に基づく。そこで、仏教
 がスピリチュアルケアに関われるのかというテー

マについて、仏教思想の歴史や多様な文献を引用
 しながら「仏性」を紹介し、これと窪寺俊之教授
 の定義に基づく「スピリチュアリティ」の比較検
 討—小森氏によれば、両者の架橋可能性の検討—
 が展開された。

2. 仏性とスピリチュアリティ

仏性については、『涅槃経』（光明遍照高貴徳王
 菩薩品第十の五）より7つの特質を示し、高崎直
 道『宝性論』（講談社、1989年）*を引きながら「仏
 を得るための因」とであるとして、さらに仏性と靈
 魂の比較を交えながら、以下のように論旨展開さ
 れた。

すなわち、スピリチュアリティを自覚的事実、
 宗教的事実、根源的事実に分節すると、それぞれ『宝
 性論』の行仏性、悲仏性、理仏性と合致し、また、
 スピリチュアリティにおける超越的他者は悲仏性
 と、究極的自己は理仏性とそれぞれ矛盾しない。
 さらに両者は、その遍在性・普遍性においても共
 通している。しかし、前者はすべての人に備わっ
 ており、生活環境の変化によって進化する可能性
 が強調されているのに対し、後者は身体に内在す
 ると言いつつも、あるとないとも言え、修行
 すれば顕現するが求めなければ何も実感できない
 ことから希求する必要性が強調されている。

3. まとめ

以上の論旨展開に基づき、仏性とスピリチュア
 リティとは、内容面での親和性が見られることを
 概ね肯定する立場をとりながらも、仏性には護教
 的・倫理的な色合いも濃く、現代人にアピールし
 難い側面があることも小森氏は指摘された。さら
 に、個人の仏性を十全に徹見できるのは仏のみで
 あるという。したがって、これは宗教的枠組みを
 超えて展開するスピリチュアルケアに耐え得るも
 のとするため、超克しなければならない仏教の課
 題であるとまとめられた。



上段左手前：小森英明氏（発題者）
 上段左奥：窪寺俊之教授

注

* 原典は『宝性論 (Ratnagotravibh)』で、漢訳『究竟一乘
宝性論四卷』あぐなまだい 勒那摩提訳 (511年)。

(文責：田村綾子 [たむら・あやこ] 聖学院大学人
間福祉学部人間福祉学科准教授)